

(道徳)

よりよい生き方に向かって、主体的に考え、  
行動しようとする子どもを育てる道徳教育を目指して  
～ 道徳教育のねらいを実現するための指導方法の改善・充実 ～

大阪市立扇町小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標を「豊かな心を持ち、自ら考え、正しく判断できる子どもを育てる」とし、「よく考える子」「やさしい子」「元気な子」を目指す子ども像として、「知、徳、体」のバランスのとれた子どもの育成を目指して日々の教育活動を進めている。

平成24年度末の本校アンケートより、子どもたちの自尊感情が十分に育っていないことや、相手の気持ちを考えたり、思いやったりする他者への関わりが消極的傾向にあることが課題として明らかになり、こういった課題を解決していく取り組みが必要であると分かった。そこで、平成25年度では、発問と授業展開を工夫した道徳の授業について研究を始めた。大阪市小学校教育研究会道徳部の研究などを基に、道徳の授業について基本を学び、実践し、それに加えて、子どもがより多様な考えを出せるようにするために、少しずつ授業者ごとの工夫を入れていった。そのように道徳の授業の研究を進めていくにつれて、本校の子どもの実態をより意識した扇町小学校オリジナルの道徳教育の研究、推進の必要性を感じた。また、「特別の教科 道徳」の位置付けが決まり、より多様性をもった効果的な指導方法を研究していく必要性も感じられた。

そこで、平成26年度では、発問と指導方法の工夫を視点に研究を推進していくことにした。これまで様々な課題を指摘されていた道徳の授業を振り返り、改善に取り組むことで、多様性やしなやかさをもった、かつ、子どもたちの心により鋭く迫る道徳教育について研究を進めた。その際、扇町の研究の基盤の一つとして、「DOC (Dynamic Originality Challenge)」をキーワードとして掲げた。「ダイナミック」では、思考を柔軟にし、大胆な発想で授業を考えることをねらいとし、「オリジナリティー」では、本校の子どもたちの実態を見つめ、扇町として独自性のある授業や道徳教育を目指し、「チャレンジ」では、失敗や批判を恐れず、あらゆる方法・方策を試してみることにした。これらを念頭に置き、実践していった結果、子どもたちがより主体的に授業に取り組み、自らを振り返り、自己の生き方について考えを深めることができた。また、発問を検討、討議することを通して、子どもたちが道徳的価値について理解するための発問や、子どもたちが自分との関わりで道徳的価値をとらえていくための発問を工夫することができた。さらに、子どもの心を揺さぶり、自己を見つめさせることにより、様々な生活の中で、よりよく生きようとする姿が見られるようになってきた。しかし、子どもたちが道徳的価値の自覚をさらに深められるようにするための資料を分析する力が必要であると感じたり、子どもたちがより自分に振り返って考えることができる発問の工夫や授業展開の工夫の必要性を感じたりした。

道徳の研究を3年間続けてきた集大成として、道徳教育を通じて子どもたちにどのような心をどのように育てていくのかと考えた際、これから先直面していく多様な課題に対して、これまでの経験を生かし、自ら考え、自ら解決しようとし、自ら行動しようとする子どもを育てていくことが大切であると考えた。そこで、平成27年度の研究主題を「よりよい生き方に向かって、主体的に考え、行動しようとする子どもを育てる道徳教育を目指して ～道徳教育のねらいを実現するための指導方法の改善・充実～」と設定し、研究を推進していく。

具体的には、「自己を見つめるための授業展開の工夫」「ねらいに迫るための発問の工夫」の2つを研究の視点として、それらを追究することにより、研究主題に迫ることができる考える。

## 2. 研究の内容

研究主題に迫るため、研究の視点を以下のように設定した。

### 視点① 自己を見つめるための授業展開の工夫

○授業を通して子ども一人一人が道徳的価値の理解と自己理解を深めたり、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるようになるために、学習の導入や展開、終末などの授業展開を工夫し、授業で学習したことを、自らのこととして振り返りやすくしていく。

### 視点② ねらいに迫るための発問の工夫

○子どもの問題意識や疑問などを生み出し、多様な感じ方や考え方を引き出すことができるようにするために、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問などを心掛ける。そのために、資料中のある場面に即して、登場人物の心情や行為の理由を問うような発問だけでなく、人物の生き方やその受け止め、資料の全体や変化などに着眼して問うようなねらいに迫る発問を工夫していく。

## 3. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 導入・展開・終末といった授業展開の工夫をさまざまな形で行うことにより、授業を通して子ども一人一人が道徳的価値の理解と自己理解を深めたり、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるようになった。
- 中心発問の工夫によって子どもたちの考えを深めたり、補助発問の準備によって子どもたちの反応に対応したりするなど、ねらいに迫るための発問の工夫を行うことにより、子どもの問題意識や疑問などを生み出し、多様な感じ方や考え方を引き出すことができるようになった。
- 資料を深く読み込み、登場人物の心情や道徳的变化、気付かせたい道徳的価値といった分析をすることにより、子どもたちが分かりきったことをなぞる授業ではなく、生きていく上での新しい価値を学ぶ授業づくりを進めていくことができた。
- 研究だよりの作成や道徳掲示板・ホームページでの発信などにより、本校の道徳教育の取り組みを内外に広めていくことができた。

### (2) 今後の課題

- 平成27～29年度の移行期を含め、平成30年度から本格実施となる「特別の教科道徳」へのスムーズな移行を図る。
- 子どもが主体的に考えることのできる授業展開の工夫や発問の工夫を他教科でも模索していく。